令和5(2023)年10月発行

東京都

みどりと生きるまちづくり

TOKYO GREEN BIZ

東京都の緑の取組



100年先を見据えた、
みどりと生きるまちづくり

これまで東京都では、あらゆる機会を通じて緑を創出･保全することで、
緑の量的な底上げと質の向上を図り、
緑を「増やす」取組を推進する「緑溢れる東京プロジェクト」を進めてまいりました。

一方、近年の緑を取り巻く状況に目を転じると、
気候変動への適応など「社会的な課題解決への緑の活用」や、
新型コロナを契機に「開放的な緑空間等へのニーズ」が高まるなど、
都市に求められる機能や人々の価値観も変化。
海外都市では、グリーンインフラをはじめとした様々な取組が行われるなど、
世界的にも自然環境と都市機能の調和がこれまで以上に重要視されています。

こうした中で東京都では、人々の生活にゆとりと潤いを与える緑の価値を一層高め、
都民の皆様とともに未来に継承していくため、
100年先を見据えた新たな緑のプロジェクト「東京グリーンビズ」を
令和5年8月に始動いたしました。
東京の緑を「まもる」「増やし･つなぐ」「活かす」取組の強化により、
都市の緑化や、生物多様性の保全等を推進し、
「自然と調和した持続可能な都市」へと進化させてまいります。

本資料では、緑を取り巻く社会環境や課題のほか、
東京の緑を「まもる」「増やし･つなぐ」「活かす」という3つの観点で、
東京都が進めている緑の取組をご紹介いたします。

100年先を見据えた“みどりと生きるまちづくり”を掲げる「東京グリーンビズ」について、
ご理解を深めていただければ幸いです。

みどりと生きるまちづくり
TOKYO GREEN BIZ

目次

1. 新たな緑のプロジェクト「東京グリーンビズ」 …… 3

❶ 東京グリーンビズについて …… 4

❷ 緑を「まもる」取組 …… 5
- 樹木を守る新たな仕組み …… 6
- 生産緑地・農地等の保全・活用 …… 7
- 保全地域の指定促進 …… 8
- 水道水源林の保全管理 …… 9
- 屋敷林等の民有地の緑の保全 …… 10
- 街路樹の適切な維持管理 …… 11
- [コラム] 街路樹について …… 12

❸ 緑を「増やし・つなぐ」取組 …… 13
- 緑・自然の機能を発揮 …… 14
- 都市計画公園・緑地等の整備 …… 15
- 海上公園の整備 …… 16
- 道路における緑の創出 …… 17
- 民間開発に合わせた緑の創出 …… 18
- 緑のネットワーク化 …… 19
- [コラム] 東京に公園が生まれてから150年 …… 21

❹ 緑を「活かす」取組 …… 22
- 都民との協働 …… 23
- 基金や募金の活用 …… 25
- 公共空間を活用した緑あふれ人が憩う場の創出 …… 26
- 森林循環・多摩産材活用 …… 27
- [コラム] 森林と脱炭素 …… 28

2. 参考　近年の緑を取り巻く状況の変化 …… 29

付録　用語解説 …… 42

1．新たな緑のプロジェクト「東京グリーンビズ」

世界的に**自然環境と都市機能の調和が重要視**されている。
どのようにして都市における生活、人、まちをつくるのか、
大きな転換点に来ている。





GREEN × BIZ

（ 緑・グリーン、樹木・緑地 ）　（ business：事業 ）

緑のために、
様々な主体と共に進める「新たな緑のプロジェクト」を始動

みどりと生きるまちづくり

TOKYO GREEN BIZ

100年先を見据え、「東京」の「緑（グリーン）」を、
都民をはじめ「様々な主体との協働（ビズ）」により、価値を高め、継承していく考え方

東京の緑を
「まもる」「増やし・つなぐ」「活かす」取組

深刻な気候危機や新型コロナウイルスとの闘いを契機に、
人々の価値観や都市の役割は多様化しています。

こうした緑を取り巻く状況の変化へ対応していくため、
東京の緑を「まもる」「増やし・つなぐ」「活かす」取組の強化により、
都市の緑化や生物多様性の保全などを推進し、
自然と調和した持続可能な都市へと進化させていきます。

緑を「まもる」取組

- 樹木を守る新たな仕組み
- 農地の緑を保全
- 自然地保全の促進

緑を「活かす」取組

- 都民との協働
- 農林業の振興
- 自然地の活用



緑を「増やし・つなぐ」取組

- 緑・自然の機能を発揮
- 公園整備の加速
- 緑の拡充
- 緑のネットワーク化

緑を「まもる」取組

- 樹木を守る新たな仕組み
- 生産緑地･農地等の保全･活用
- 保全地域の指定促進
- 水道水源林の保全管理
- 屋敷林等の民有地の緑の保全
- 街路樹の適切な維持管理

まもる

樹木を守る新たな仕組み

概要

樹木を守る新たな仕組み「ツリーバンク」の創設について
今後取組を具体化していきます。



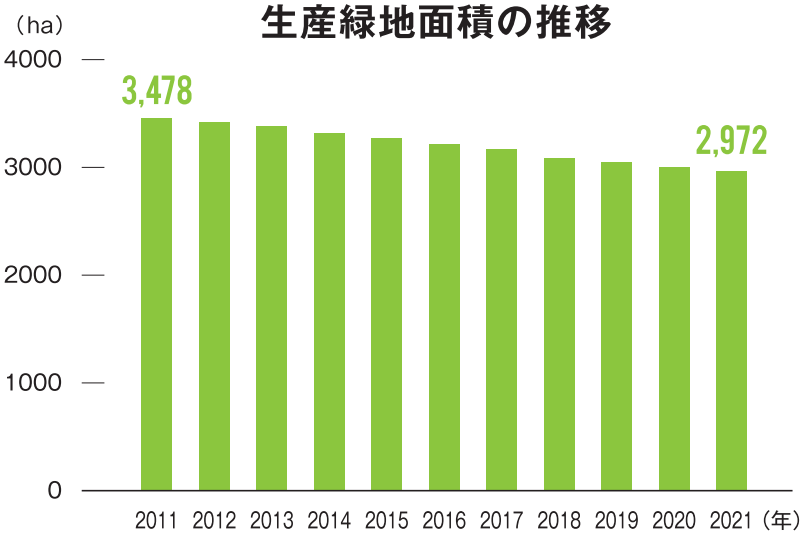
まもる　生産緑地・農地等の保全・活用

概要

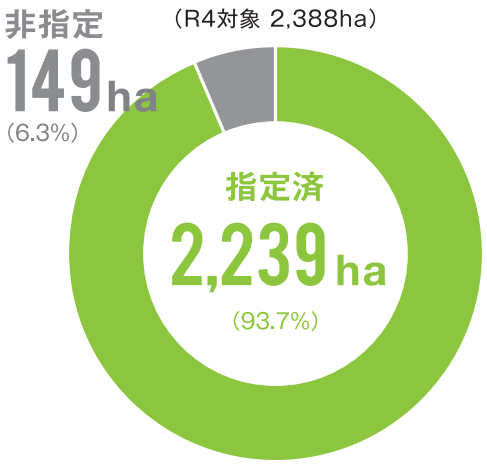
東京の農地は、都民の食卓に新鮮で
安全・安心な農産物を供給するとともに、生活に潤いと安らぎを与え、
災害時の避難場所となるなどの役割があります。
しかし、生産緑地等、農地は年々減少しており、
東京都では、貴重な都市農地を保全する取組を進めています。

主な取組

生産緑地面積の推移



特定生産緑地の指定状況



（令和4年11月30日現在）

生産緑地の多くは令和4年に指定後30年を迎えることから、
都内各区市において特定生産緑地の指定手続きを行っています。

農地の活用事例



農業体験農園



シニア農園利用者講習



防災兼用農業用井戸

まもる　保全地域の指定促進

概要

東京都では「東京における自然の保護と回復に関する条例」により、
昭和49年から令和4年12月末現在、
計50地域約760haを保全地域に指定し、貴重な自然地を守っています。

主な取組




歴史環境保全地域


緑地保全地域

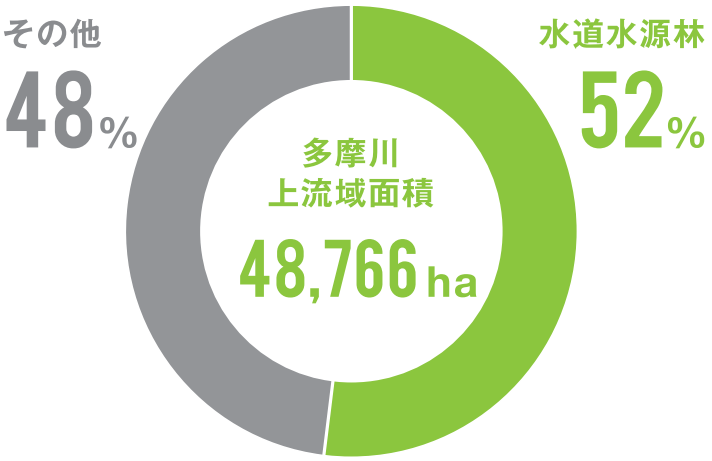

里山保全地域

まもる　水道水源林の保全管理

概要

東京の水道水源林は、
多摩川上流域に広がる
流域面積の約5割を占めており、
国内の水道事業体が
管理する森林としては
最大規模となっています。

多摩川上流域に占める水道水源林の面積



（令和5年4月1日現在）

東京で暮らす人々に多摩川上流から
きれいな水を安定的にお届けするため、水道水源林を適切に管理し、
水源林がもつ機能を十分に発揮できる森づくりに努めています。

主な取組

水源林の保全作業では、
健全な水道水源林の
育成･管理を目的として、
森林の手入れや獣害･病虫害対策、
歩道などの森林諸施設の整備を
実施しています。



森林管理用歩道の整備（間伐材を利用した木柵）



間伐（生育の悪い木などを抜き切りする作業）

まもる

屋敷林等の民有地の緑の保全

特別緑地保全地区

概要

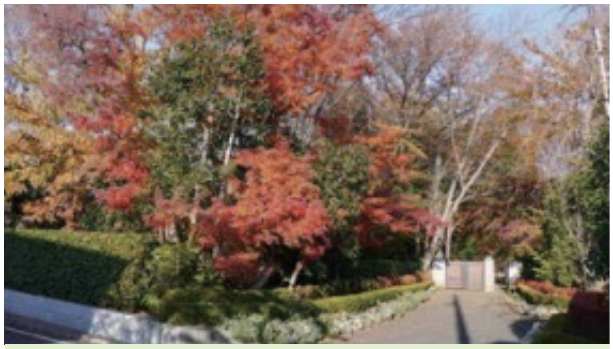
都市緑地法に基づき、都市において良好な自然的環境を形成している緑地を指定。
税金の優遇等により樹林地を所有する負担を軽減する一方、
建築行為や木竹の伐採などの行為に制限がかかります。

主な取組

都内53箇所、約321haを指定しています。（令和5年4月時点）



足立区 西新井榮町特別緑地保全地区



西東京市 下保谷四丁目特別緑地保全地区

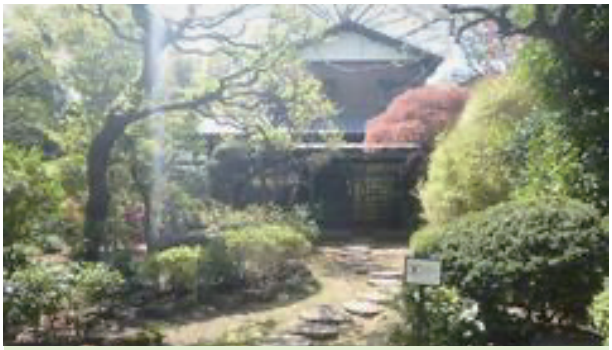
市民緑地契約制度

概要

都市緑地法に基づき、地方公共団体等が、土地等の所有者と契約を締結して、
市民緑地を設置管理する制度です。
契約期間は5年以上で、所有者の管理負担の軽減等のメリットがあります。

主な取組

都内56地区で市民緑地を指定しています。（令和4年3月末時点）



世田谷区　北烏山九丁目屋敷林市民緑地

（出典）世田谷区ウェブサイト



杉並区　山葉名いこいの森

（出典）杉並区ウェブサイト

まもる

街路樹の適切な維持管理

概要

街路樹は、都市環境を良好に保ち、快適でうるおいのある街並みをつくることを目的として整備しています。その維持管理のため、高木の剪定、低木の刈り込み、病害虫の防除、街路樹診断等を行っています。

主な取組

街路樹の樹種毎の特性や目的に応じた適切な剪定を行っています。
剪定は主に2つの種類･時期で実施しています。

基本剪定 （冬期剪定）	主に落葉樹を対象として、 樹木全体の骨格をつくることを目的として行う。
軽剪定 （夏期剪定）	萌芽した枝の密度調整、乱れた樹冠の整正、台風などの強風による倒木防止、病虫害の発生防止を目的として行う。

また、東京2020大会を契機に、夏の暑さ対策として、緑陰を確保するための計画的な剪定を行っています。

今後も対象路線を拡大し、取組を進めていきます。

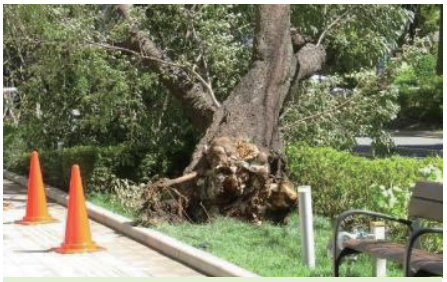


緑陰形成

適切な維持管理がなされない場合、信号機の視認性低下･倒木による交通事故や、根上がりによる転倒事故など様々な問題が生じます。



信号機の視認性低下



倒木



根上がりによる歩道不陸

コラム

街路樹について

日ごろから接する機会の多い緑に、並木に代表される道路の街路樹があります。

道路には、人や物を安全かつ円滑に移動させる本来の役割のほかに、緑を創出し、都会の中で四季を感じさせ、潤いのある都市空間をつくる役目もあります。

令和5年4月1日現在、東京都内の街路樹は約100万本あり、
このうち東京都では約65万本を管理しています。

都内道路の街路樹ベスト5（本数）

1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
ハナミズキ	イチョウ	サクラ類	トウカエデ	ケヤキ	773,366	1,000,546
60,848	58,858	42,971	35,630	28,873		

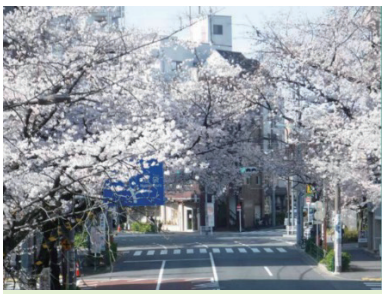
※令和5年4月1日時点



小川山田無線（小平市）ハナミズキ



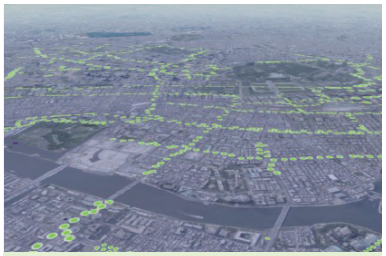
行幸通り（千代田区）イチョウ



中野通り（中野区）ソメイヨシノ

街路樹の見える化

都が公開している「デジタルツイン3Dビューア」では、サイバー空間に建物や街を再現することに加えて、都心3区にある都道の一つ一つの街路樹の情報なども見える化しています。



デジタルツイン3Dビューア

緑を「増やし・つなぐ」取組

- 緑・自然の機能を発揮
- 都市計画公園・緑地等の整備
- 海上公園の整備
- 道路における緑の創出
- 民間開発に合わせた緑の創出
- 緑のネットワーク化

増やし
つなぐ

緑･自然の機能を発揮

概要

自然環境が有する機能を、社会課題の解決に活用するため、
都有施設や民間施設等でグリーンインフラの導入を進めていきます。



雨水浸透緑地帯（レインガーデン）

（出典）ニューヨーク市ウェブサイト



屋上緑化（都議会議事堂屋上）



多自然川づくり（西東京市）

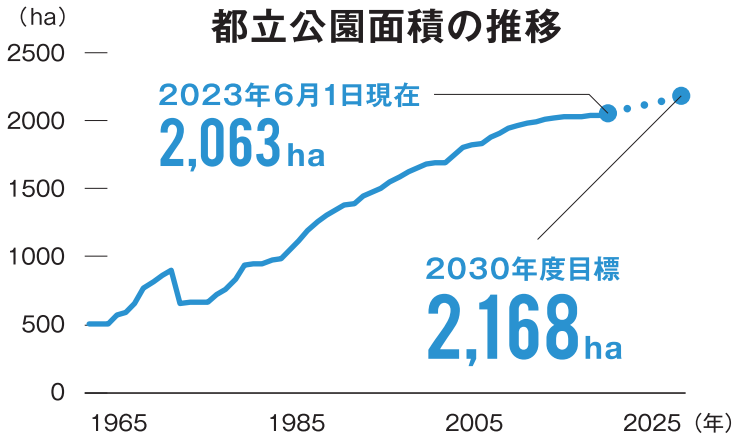
増やし つなぐ

都市計画公園・緑地等の整備

概要

公園・緑地のみどりは、都市に潤いや風格を与え、やすらぎ・レクリエーションの場の提供、都市環境の改善、防災空間の確保などの役割があります。
東京都では、都立公園の新規拡張整備や区市町村立公園の整備を支援しています。

主な取組



これまでに都立公園を累計2,063ha整備してきました。2030年度には2,168haを目標に整備していきます。

※グラフ中、2022年度以前は4月1日時点の数値です。



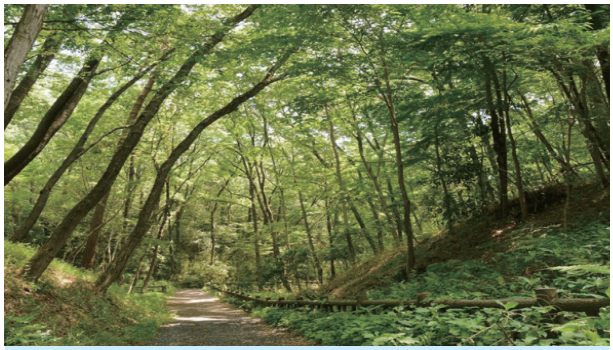
練馬城址公園



高井戸公園



六仙公園



中藤公園

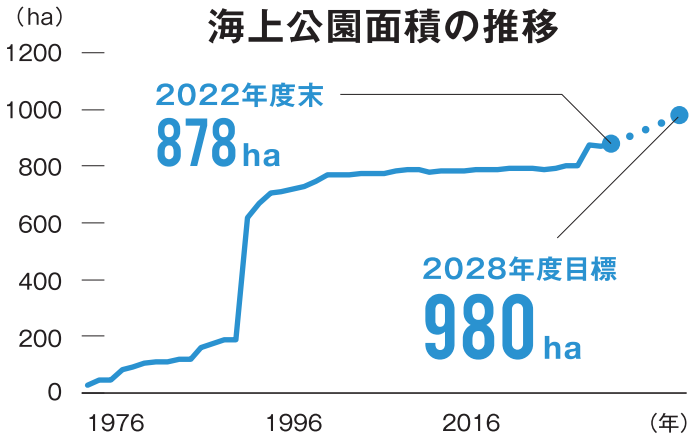
増やし
つなぐ

海上公園の整備

概要

海上公園は、海や自然とふれあい、
スポーツや野鳥観察などレクリエーションを楽しめる場として、
東京の埋立地に整備しています。
現在、お台場海浜公園をはじめ、40箇所開園しています。

主な取組



これまでに海上公園を
累計878ha整備してきました。
2028年度までに980haを
目標に整備していきます。

※グラフ中、2021年度以前は4月1日時点、
2022年度は年度末時点の数値です



海の森公園



お台場海浜公園



晴海ふ頭公園 ©東京港埠頭㈱



有明親水海浜公園

増やし つなぐ

道路における緑の創出

概要

道路の緑には、人にうるおいや安らぎを与えるほか、
都市環境の改善、美しい都市景観の創出など、様々な役割があります。
これらの道路の緑の役割が最大限に発揮できるよう、
都道の緑の整備を行っています。

主な取組

都内の道路
（国道・都道・区市町村道）では、
約100万本の街路樹が
整備されています。

種類	管理本数（本）
一般国道	24,234
都道	645,875
区道	206,451
市町村道	123,986

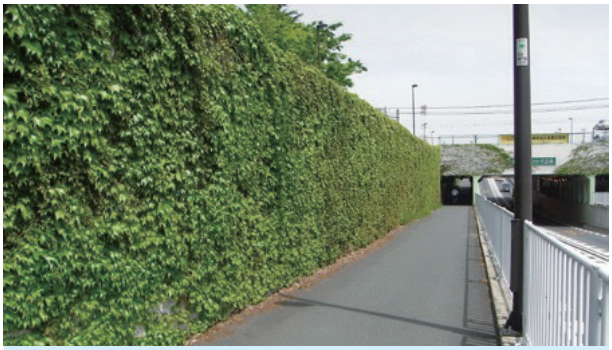
※令和5年4月1日時点



街路樹　＜渋谷区内・表参道＞



緑化道路　＜千代田区内・内堀通り＞



壁面緑化　＜小平市内・新小金井街道＞



中央分離帯　＜立川市内・一般都道第153号線＞

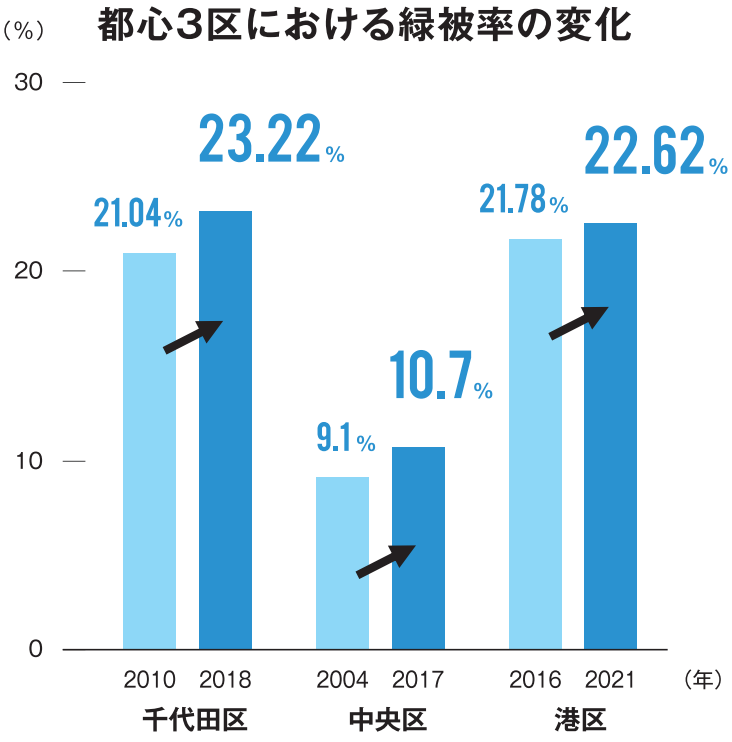
増やし
つなぐ

民間開発に合わせた緑の創出

概要

東京都では、
開発による緑の創出や保全の取組を評価する仕組みによって、
民間開発における緑化を促進することで、
都市に新たな緑を生み出しています。

主な取組



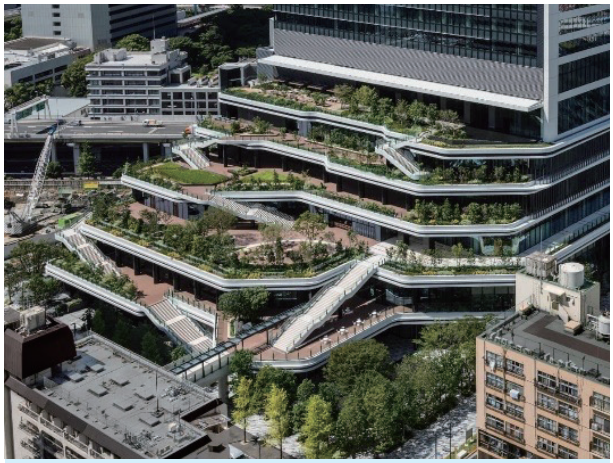
開発が進む都心3区では、
緑被率が増加しています。

竹芝や麻布台、大手町など、
最近の大規模民間開発では、
合わせて6万㎡の緑が
新たに生まれています。

（出典）千代田区緑の実態調査及び熱分布調査報告書
中央区の緑の実態調査（第5回）報告書
港区みどりの実態調査（第10次）報告書



麻布台ヒルズ



東京ポートシティ竹芝

増やし つなぐ

緑のネットワーク化

公園や緑地などの整備に加え、道路や水辺などを活用したネットワークを形成することで、水と緑溢れる東京の実現に向け取組を進めています。



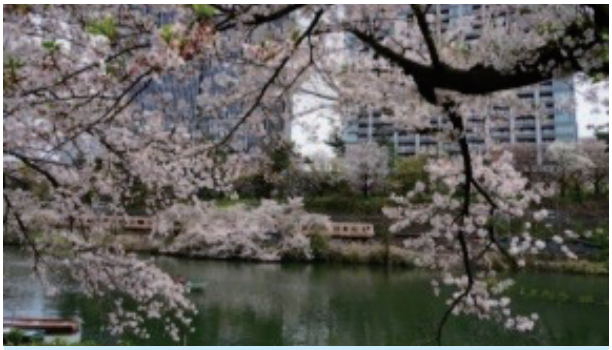
玉川上水を活用した外濠の水辺再生

概要

歴史的財産である外濠の水質改善を進め、都心で働く人々への癒しの場の提供や品格ある景観の形成に向け取り組んでいます。

主な取組

外濠浄化の推進とともに、将来に「水と緑の空間」を残していくため、外濠や玉川上水などに関する「子供向け勉強会」を実施しています。



外濠



玉川上水

増やし つなぐ

緑のネットワーク化

東京高速道路(KK線)の再生

概要

東京の新たな価値や魅力を創出するため、
東京高速道路(KK線)上部空間を
緑に囲まれた空中回廊「Tokyo Sky Corridor」へ再生する取組を
推進しています。

主な取組

KK線の再生・活用の目標、目指すべき将来像、整備・誘導方針を
都の方針として定めました。

再生イメージ



東京に新しいみどりのネットワークが形成されます



みどりと潤いを感じる憩いの空間で過ごすことができます

完成イメージをより多くの方に感じていただくため、
歩行者空間を体感するイベント「銀座スカイウォーク(銀スカ)」を開催しました。





コラム

東京に公園が生まれてから150年

明治6年（1873年）に公園制度が発足し、
最初の都立公園である上野恩賜公園・芝公園が開園してから150年を迎えました。

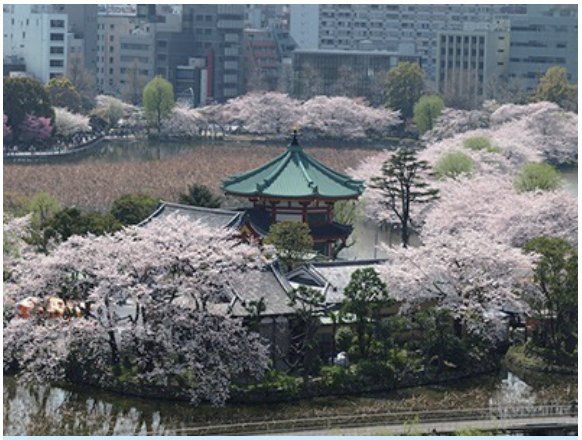
都市公園制度制定150周年
150TH ANNIVERSARY
Tokyo park 150 years

「東京都都市公園制度制定150周年記念事業」
ロゴマーク



150周年記念事業特別アンバサダー
（上野恩賜公園公式キャラクター）

都内には、両公園をはじめ、文化財の指定を受けている庭園、
スポーツを楽しむ施設のある公園、動植物園など様々な都立公園があり、
現在84箇所が開園しております。



上野恩賜公園（最初の都立公園）



日比谷公園（近代的洋風公園の先駆け）



浜離宮恩賜庭園（文化財指定の日本庭園）



駒沢オリンピック公園（1964年東京オリンピック会場）

緑を「活かす」取組

- 都民との協働
- 基金や募金の活用
- 公共空間を活用した緑あふれ人が憩う場の創出
- 森林循環・多摩産材活用

活かす　都民との協働「東京グリーンビズ･ムーブメント」

概要

森林環境譲与税を活用するほか、都民と協働し、
緑を活かし、育てる「東京グリーンビズ･ムーブメント」を展開していきます。



植樹イベント
（出典）多摩市ウェブサイト



海の森公園における育樹（写真は植樹時のもの）



都民と協働した整備･管理等

活かす　都民との協働

概要

東京都では、誰もが緑に親しみ、憩える環境を創出するため、
都民の共感を得ながら、協働して緑を活かし、育て、
次世代に継承する取組を推進しています。
このような取組は、地域コミュニティの活性化や多世代交流、
こどもたちの環境教育にも寄与しています。

主な取組



環境局 里山へGO!　Webサイト

多様な生きものが
共存できる環境を保つための
森の手入れや田植え･稲刈り、
自然観察、クラフト体験プログラム
などを開催しています。



海の森公園

高さ30メートルにおよぶ
ごみの山に、都民参加により
苗木を植え（約24万本）、
美しい森に生まれ変わらせました。

その苗木は、市民の皆様と民間企業からの募金によって購入するほか、
小学生や苗木づくりボランティアの方々がドングリから育てました。

活かす　基金や募金の活用

概要

「東京都都市緑化基金」、「都立公園サポーター基金」、
「花と緑の東京募金」などを活用し、
都民や企業の皆さまの支援をいただきながら、緑化事業を推進しています。

主な取組

▶ 東京都都市緑化基金



街かど緑化支援事業（BRANCH 調布）



街かど緑化支援事業（東京証券会館）



花壇･庭づくり活動支援事業（港区芝公園）

▶ 都立公園 サポーター基金



桜保全普及事業（上野恩賜公園）



ハーブガーデンの充実（東村山中央公園）



ガーデニングショー2022（日比谷公園）

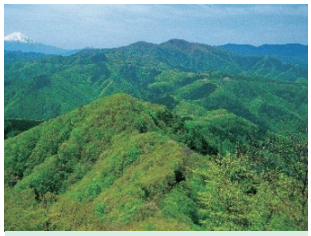
▶ 花と緑の東京募金



生物多様性豊かな
緑の保全事業



花と緑の
おもてなし事業



花粉の少ない
森づくり事業



自然環境教育の
場づくり事業

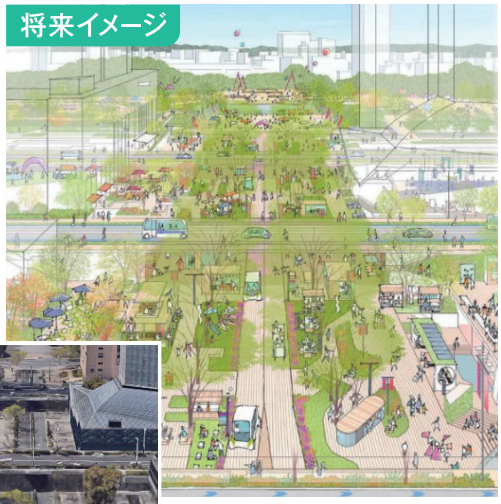
活かす　公共空間を活用した緑あふれ人が憩う場の創出

概要

道路や広場などの公共空間を、緑あふれ、人が憩い、
楽しく歩くことができる都市空間へと再編する取組を進めています。

主な取組

西新宿地区において都市空間の再編を目指し、
訪れる方々に楽しい新宿を体験していただくため、
歩道や公開空地等を活用したイベント等に取り組んでいます。





画像 ©2023 Google、Landsat / Copernicus、
Data Japan Hydrographic Association、
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO、

地図データ ©2023 Google　20m





周辺街路と一体となった
「新しい西新宿地区」を
先導する象徴的な空間

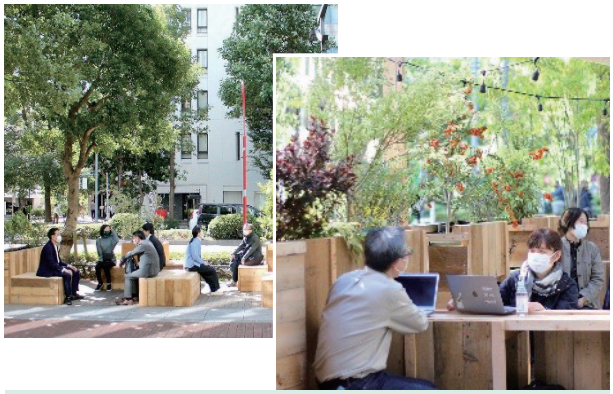


FUN MORE TIME SHINJUKU
（西新宿エリア）

地域団体や地元区市等による取組も拡大しています。



Marunouchi Street Park 2023 Summer（丸の内仲通り）



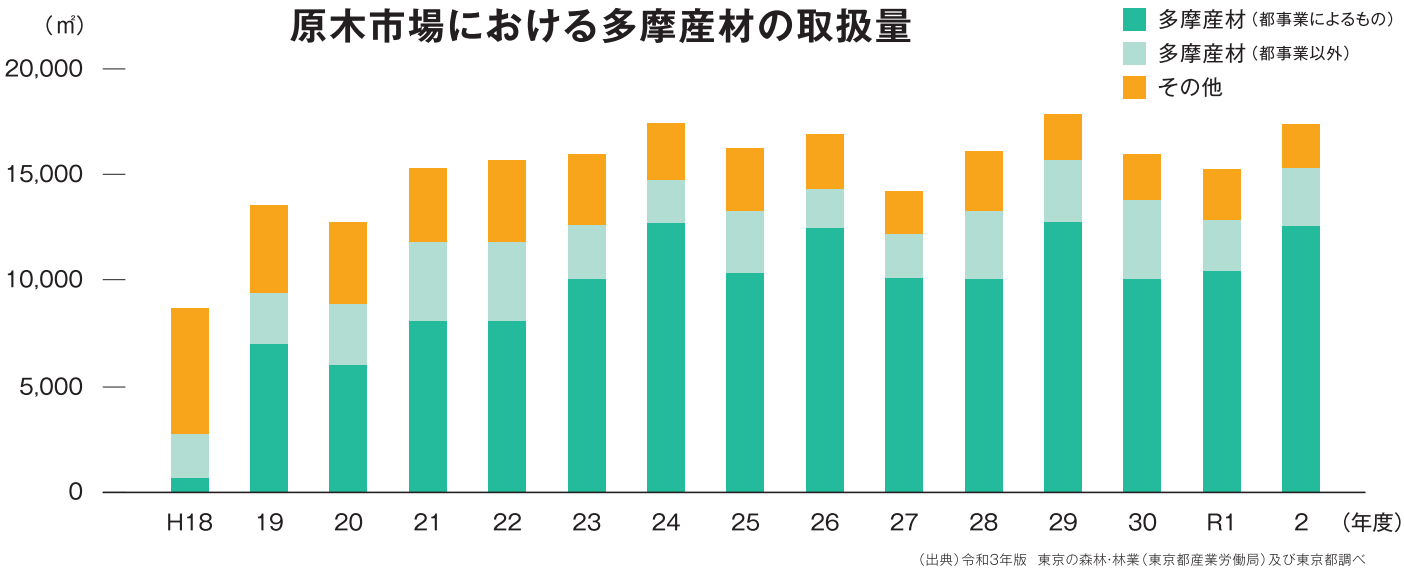
IKEBUKURO LIVING LOOP（グリーン大通り）

活かす　森林循環・多摩産材活用

概要

東京の総面積の約4割は森林です。森林は、木材を供給するほか、
豊かな水源を育み、土砂の流出を抑えて都民を災害から守るなど、
多面的な機能を発揮しています。
都民の共有の財産である森林を次世代に引き継ぐため、東京都では、
持続可能な森林循環の確立と林業の経営力強化を推進しています。

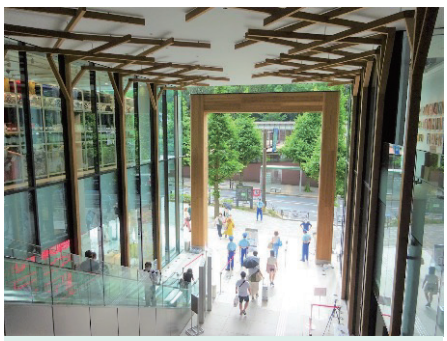
主な取組



（出典）令和3年版　東京の森林・林業（東京都産業労働局）及び東京都調べ

多摩産材の取扱量は着実に増加しており、
そのうち約8割は都事業で伐採された木材が占めています。

多摩産材の利用事例



WITH　HARAJUKU（渋谷区）



京王あそびの森　HUGHUG（日野市）

多摩産材の魅力発信拠点



「TOKYO MOKUNAVI（モクナビ）」

コラム

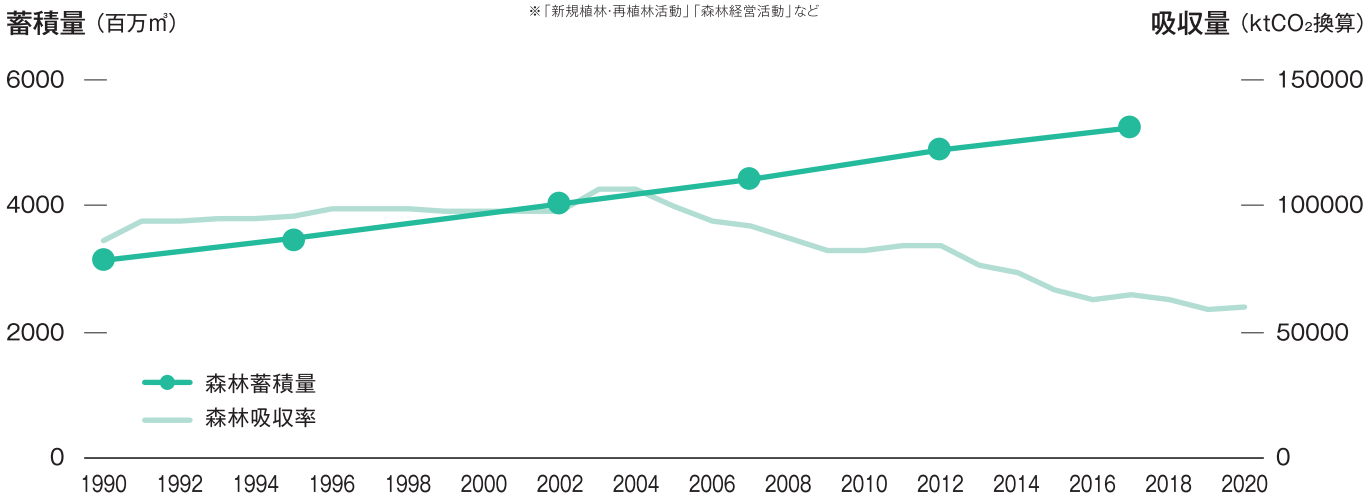
森林と脱炭素

近年、日本の森林面積はほぼ一定ですが、
森林資源量の目安である「森林蓄積」は増え続けています。
一方で、人工林の高齢級化等に伴い、森林の温室効果ガス吸収量は減少傾向です。
森林吸収量の確保に向け、「伐って、使って、植えて、育てる」森林の循環を進め、
若い森林の確実な造成を促進するため、
令和4年8月にはJ-クレジット制度の改正※が行われています。

※詳細はJ-クレジット制度ウェブサイト（https://japancredit.go.jp/about/revision/）を参照

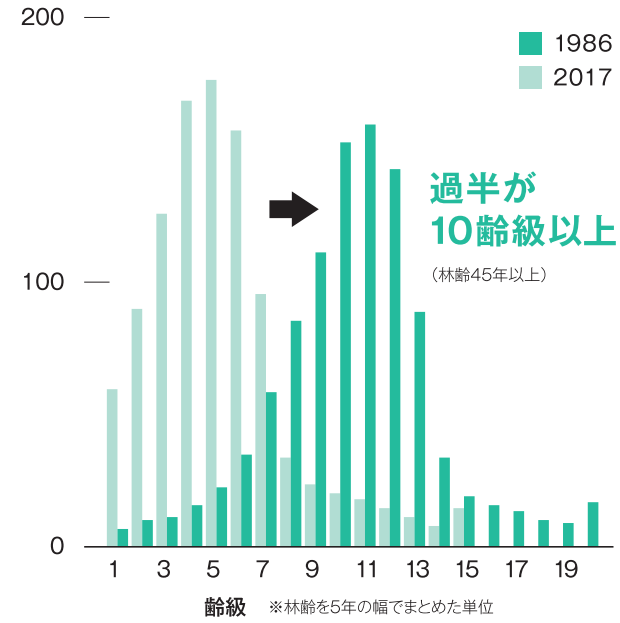
森林蓄積量と吸収源対策※による森林吸収量の推移

※「新規植林・再植林活動」「森林経営活動」など



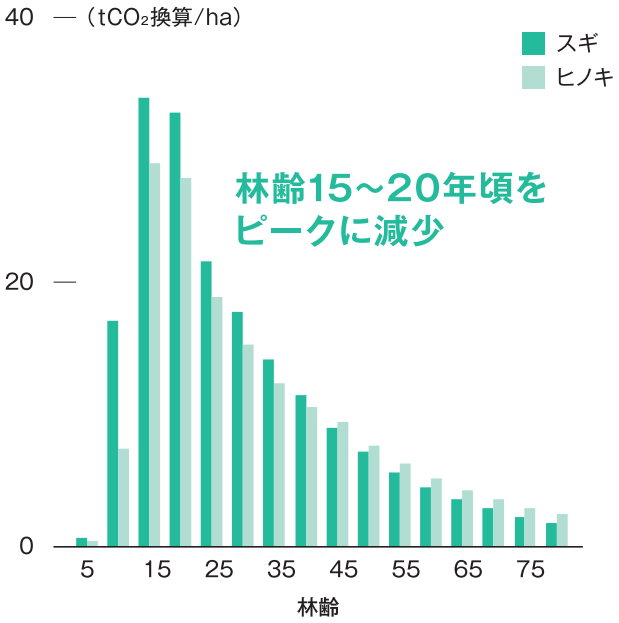
（出典）林野庁「 森林資源の現況（平成29年）」、国立環境研究所「日本の温室効果ガス排出量データ（1990～2021年度）」を基に作成

人工林の齢級別面積の推移



（出典）林野庁「第1回森林小委員会」資料を基に作成

樹種別、林齢別の二酸化炭素吸収量

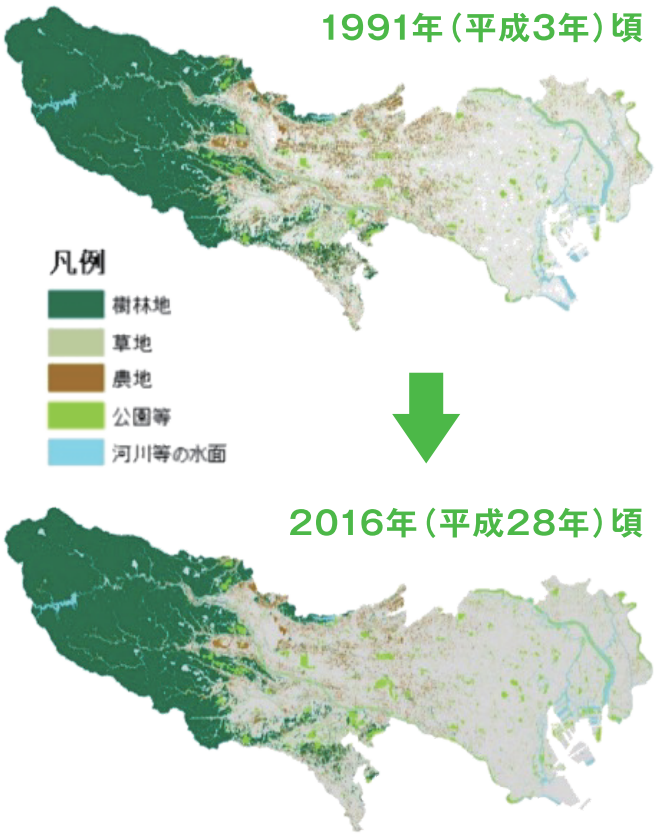


（出典）長野県「「森林の里親促進事業」CO₂吸収量等算定基準」を基に作成

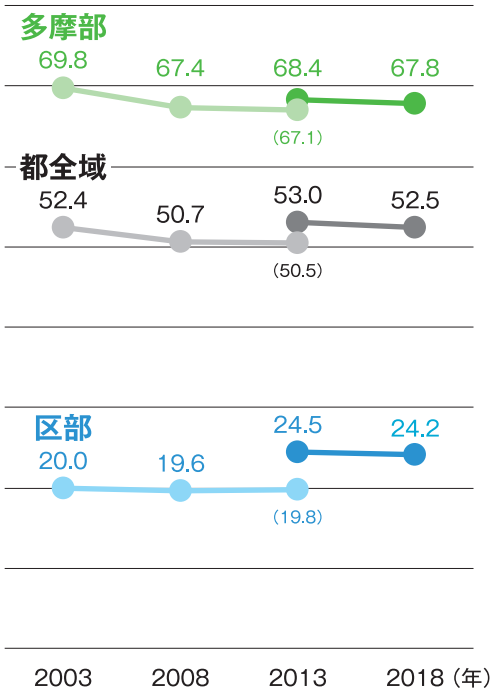
2. 参考　近年の緑を取り巻く状況の変化

緑に関する現状

東京の緑は、減少傾向にあるものの、公園整備や生産緑地の保全、
あらゆる機会を捉えた緑の創出等により、近年は横ばいで推移。



みどり率の推移

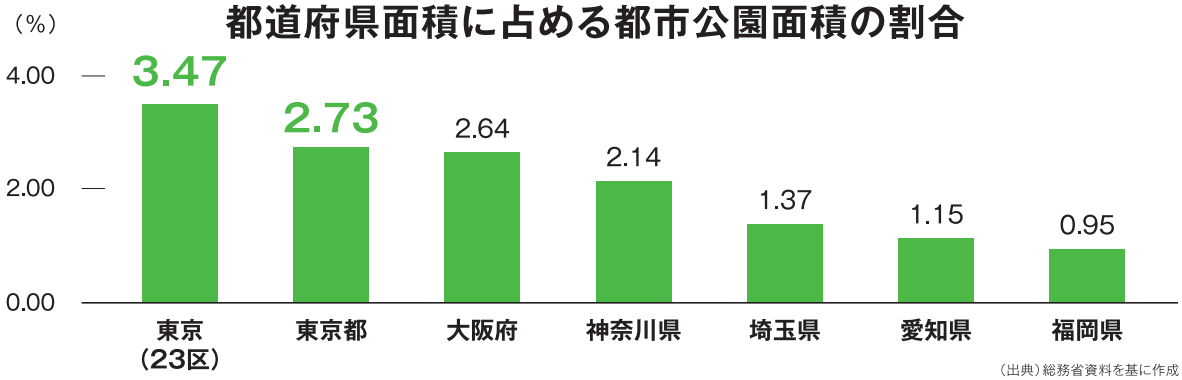


【みどり率】緑が地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が地域全体に占める割合（%）

公園の面積

都道府県面積に占める都市公園面積の割合は、他道府県と比べ東京都が一番高い。

都道府県面積に占める都市公園面積の割合



（出典）総務省資料を基に作成

緑を取り巻く社会環境

緑に求められる役割

世界的な気温の上昇
激甚化する自然災害

緑の活用による
社会課題の解決

海外における緑の活用事例（シンガポール）



（出典）PUB ビシャンパーク パンフレット

感染症の世界的流行
人々の価値観・
行動の変化

ゆとりある空間に
対する
ニーズへの対応

海外における開放的な緑空間の事例（ニューヨーク）

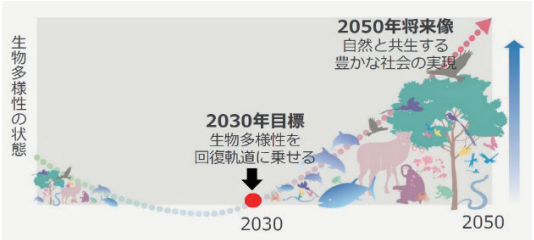


（出典）ブライアントパークウェブサイト

世界目標である
「ネイチャーポジティブ」の
実現

生物多様性の
拠点形成

ネイチャーポジティブ実現のイメージ



（出典）環境局「東京都生物多様性地域戦略」

サステナブルな
素材である
木材需要の増加

森林の多面的な
機能の発揮

世界的潮流の木材建築



グラン・パレ・エフェメール
（パリ）



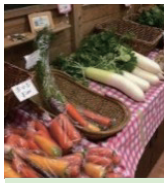
ヘルシンキ中央図書館
（ヘルシンキ）

（出典）ヘルシンキ市ウェブサイト

世界的な
食料需要増加
資源の有効活用

持続可能で
多機能な農業

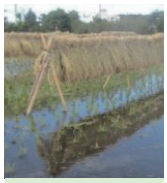
主な都市農地の機能



新鮮な農産物の
供給



身近な農業体験・
交流の場



環境の保全

（出典）農林水産省ウェブサイト

緑を取り巻く社会環境

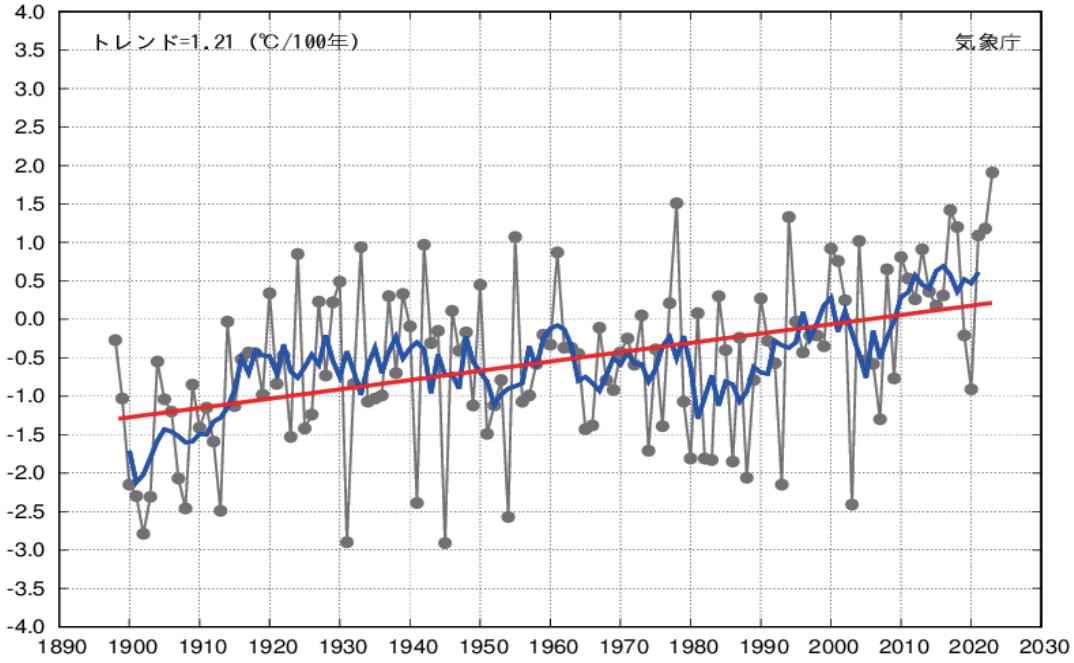
世界的な気温の上昇

気候変動により世界的な気温の上昇など、様々なリスクが顕在化。

日本の気温上昇

今年の7月は、平均気温が観測史上最高気温となった。

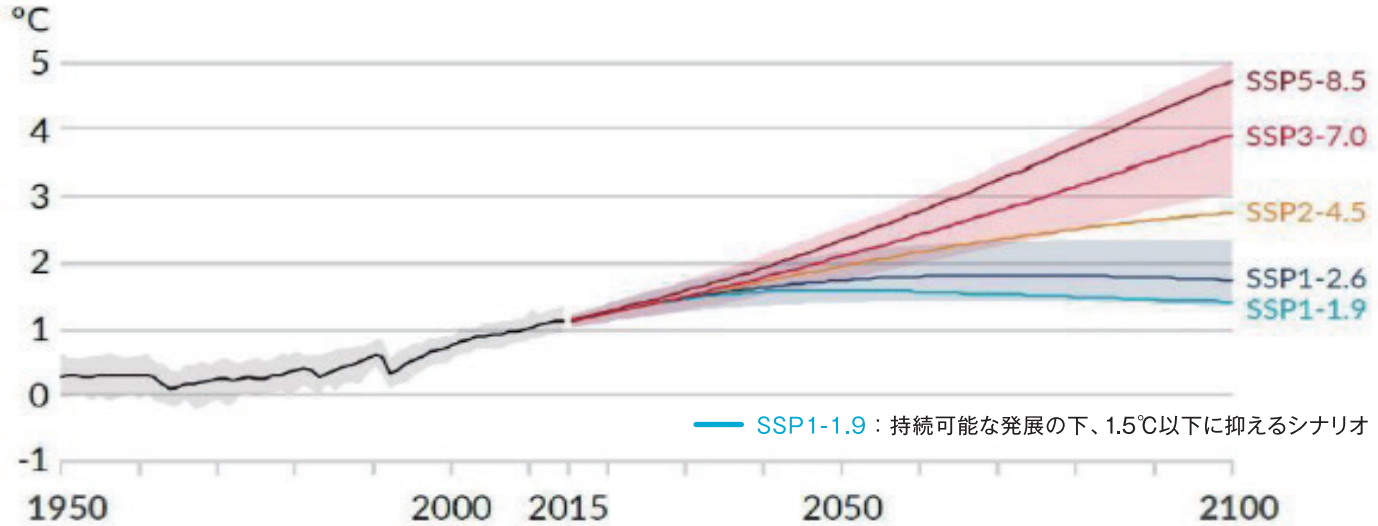
日本の7月平均気温偏差



細線（黒）:各年の平均気温の基準値からの偏差、太線（青）:偏差の5年移動平均値、直線　（赤）:長期変化傾向　　基準値は1991～2020年の30年平均値　　（出典）気象庁ウェブサイト

将来の気温上昇予測

世界では、産業革命以前に比べて世界の平均気温の上昇を1.5℃に抑える努力を追求。



（出典）IPCC「IPCC第6次評価報告書第1作業部会報告書」を基に作成

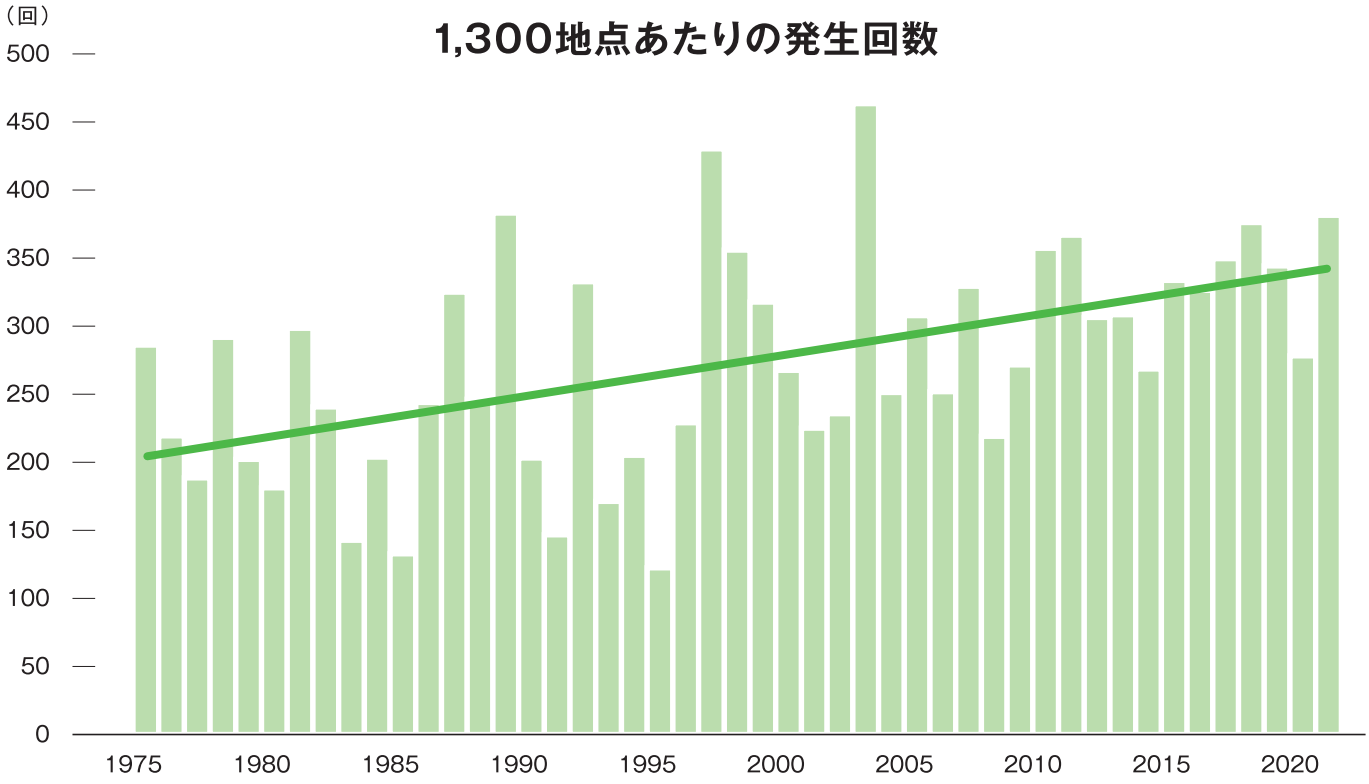
緑を取り巻く社会環境

激甚化する自然災害

気候変動に伴い、降雨量の増加等が見込まれ、風水害が頻発化･激甚化。

豪雨発生回数の推移

1時間の降水量が50mm以上の豪雨の年間発生回数は増加傾向。

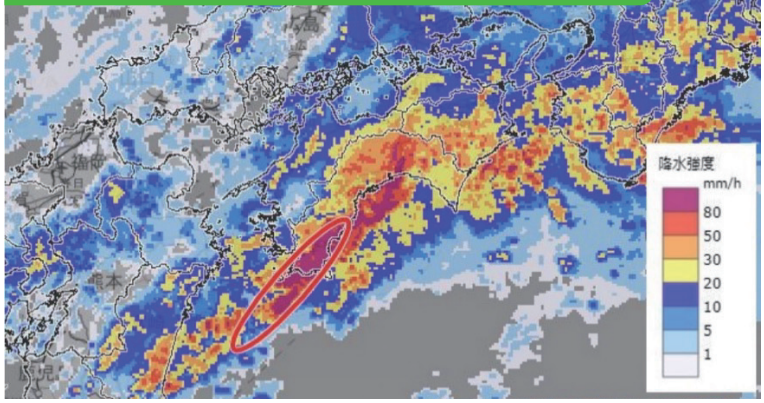


（出典）IPCC「IPCC第6次評価報告書第1作業部会報告書」を基に作成

線状降水帯等による集中豪雨

今年も全国各地で線状降水帯等による記録的な大雨が発生し、大きな被害をもたらしている。

2023年6月2日に高知県等で発生した線状降水帯



線状降水帯等の集中豪雨事例	被害状況
7月14日~19日 岩手県、秋田県　など	死者 1名・全壊 2棟 床上浸水 824棟
7月11日~13日 石川県、富山県　など	死者 13名・全壊 16棟 床上浸水 768棟
7月7日~10日 福岡県、佐賀県　など	
6月28日~7月6日 山口県、熊本県　など	
6月1日~3日 高知県、和歌山県　など	死者 5名・全壊 13棟 床上浸水 2,149棟

（出典）気象庁及び内閣府ウェブサイト（2023年7月25日時点）を基に作成

緑に求められる役割

緑の活用による社会課題の解決

気候変動により激甚化する風水害などへの対応や、生物多様性の保全など、
社会的な課題解決への緑の活用が求められている。

海外における緑の活用事例

海外諸都市では、グリーンインフラの様々な取組が行われている。

グリーンインフラ

自然環境が有する機能を、
気候変動への適応や、生物多様性の保全など、
社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。



ニューヨーク

雨水の貯留･浸透に資する
緑地帯
（レインガーデン）

（出典）ニューヨーク市ウェブサイト



シンガポール

平時は
市民が自然や水と親しみ、
河川の洪水時には
氾濫原として機能する公園

（出典）PUB ビシャンパーク パンフレット

緑を取り巻く社会環境

感染症の世界的流行 人々の価値観・行動の変化

近年のグローバル化に伴い、
今後も世界で発生する感染症が東京でも拡大するリスクがあるコロナ禍において、
ソーシャルディスタンスの確保や密の回避など、人々の行動に変化。

繰り返し発生する感染症

世界各地で新たな感染症が繰り返し発生し、国境を越えて広がっている。

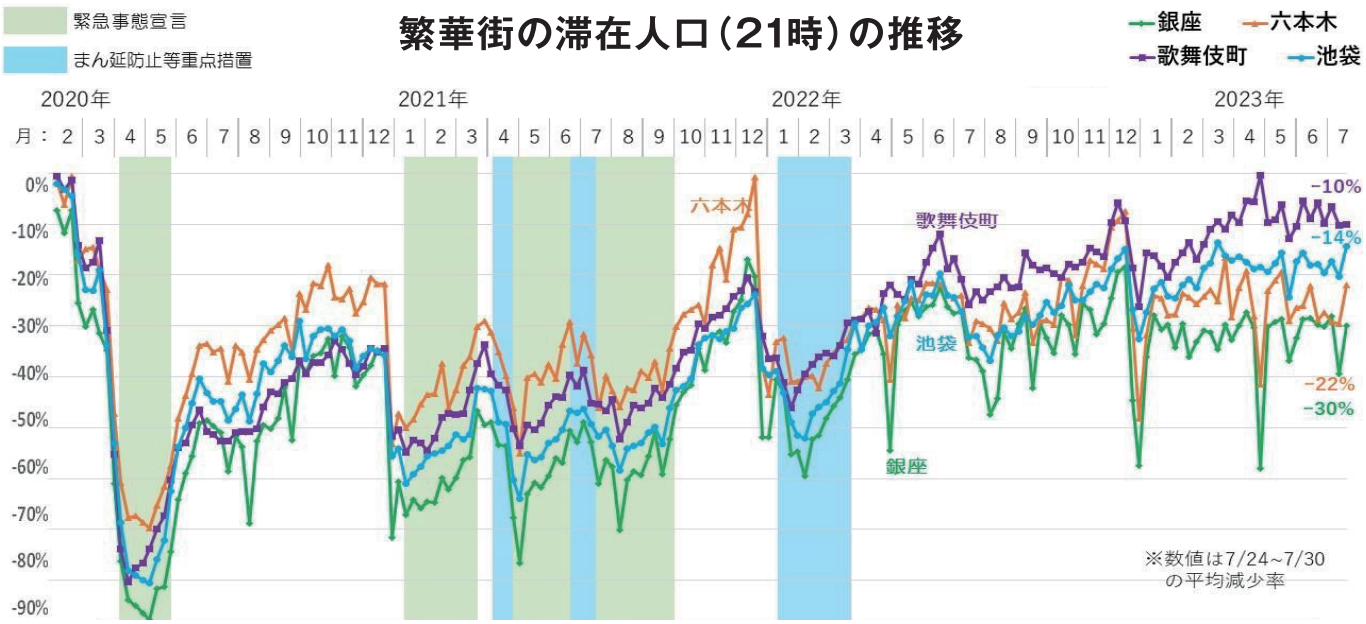
世界における感染症の歴史

年代	感染症名
紀元前～	痘そう（天然痘）
14世紀～	ペスト（ヨーロッパで大流行）
1918年～	スペイン風邪
1981年～	エイズ（後天性免疫不全症候群）
2002年～	重症急性呼吸器症候群（SARS）
2009年～	新型インフルエンザ（H1N1）
2012年～	中東呼吸器症候群（MERS）
2014年～	エボラ出血熱（アフリカで大流行）
2020年～	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

（出典）厚生労働白書、国立肝炎省研究所ウェブサイト等を基に作成

繁華街の混雑状況

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置期間は繁華街の滞在人口が大きく減少した。



● ㈱Agoop「人口推移分析ツールPapilio」のデータ（六本木・池袋は駅から半径500m圏）を加工して東京都で作成（速報値であり、今後修正される場合あり） ● 2020年1月を基準（1月6日～31日）として、各週の減少率を算出
（出典）政策企画局ウェブサイトを基に作成

緑に求められる役割

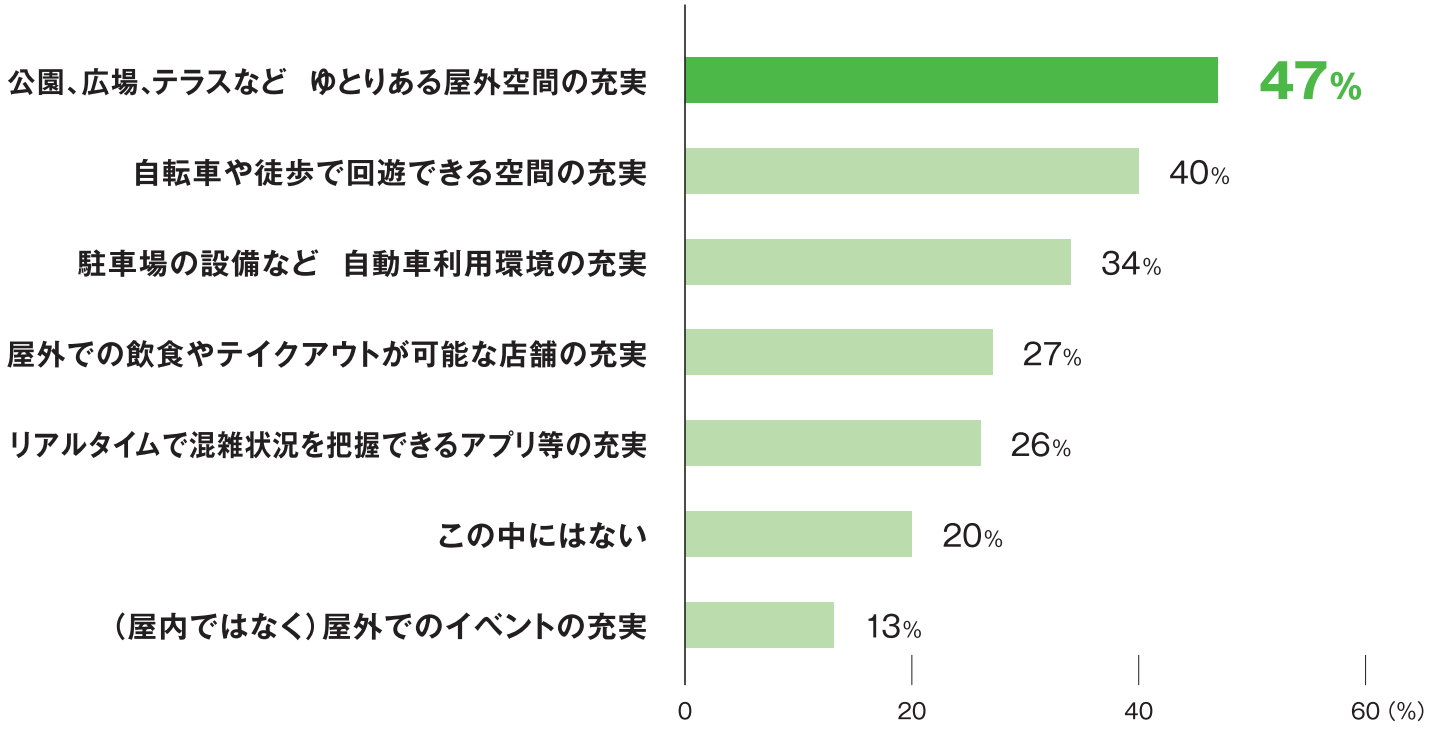
ゆとりある空間に対するニーズへの対応

新型コロナを契機に、公園、広場などゆとりある空間へのニーズが高まるなど、
都市に求められる役割や人々の価値観が変化。

都市空間や自然に対する意識

都市に求める取組として、屋外空間の充実について関心が高い。

都心や中心市街地で充実すべき取組



（出典）国土交通省「新型コロナ感染症影響下における生活行動調査（第三弾）」（令和5年5月）を基に作成

海外における開放的な緑空間の事例

海外諸都市では、開放的な緑空間の整備が進んでいる。



ニューヨーク

地域や民間事業者と連携した
にぎわいある公園

（出典）ブライアントパークウェブサイト

緑を取り巻く社会環境

世界目標である「ネイチャーポジティブ」の実現

世界目標である「ネイチャーポジティブの実現」に貢献し、
生物多様性の保全に取り組んでいくことが必要。

COP15と国の動き

2021年 10月

COP15
第1部が開催

昆明宣言
「生物多様性を回復への道筋にのせる」

2022年 12月

COP15
第2部が開催

「昆明･モントリオール生物多様性枠組」が採択

2023年 3月

生物多様性国家戦略

2023−2030が策定

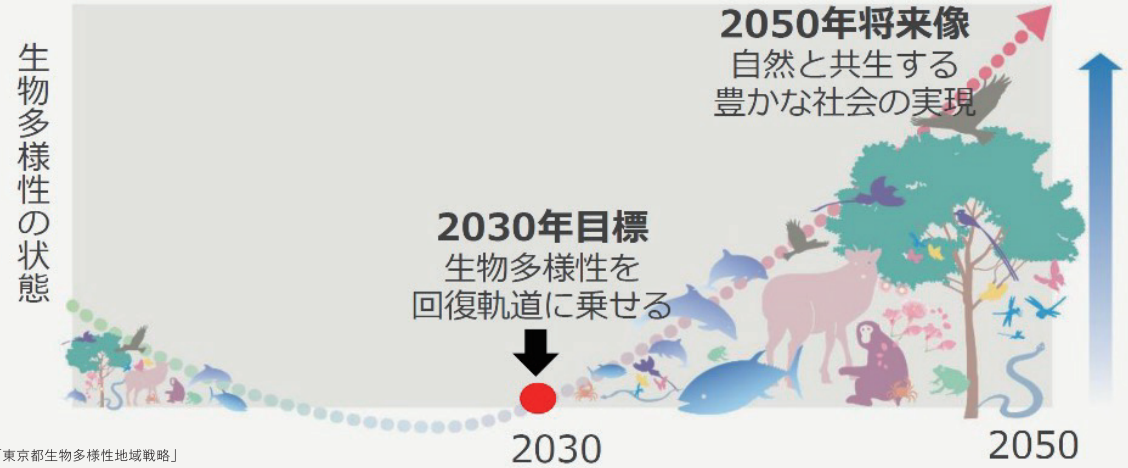
昆明･モントリオール生物多様性枠組

2030年ミッション

ネイチャーポジティブ

自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる。

ネイチャーポジティブ実現のイメージ



（出典）環境局「東京都生物多様性地域戦略」

緑に求められる役割

生物多様性の拠点形成

保全地域の拡大や管理･活用の推進により、生物多様性の拠点として機能。

保全地域指定地の分布

保全地域50地域のうち指定地の分布は、山地が2地域、丘陵地が23地域、台地が25地域。



1	野火止用水	16	小山		
2	七国山	17	氷川台		
3	海道	18	宇津木		
4	東豊田	19	清瀬御殿山		
5	勝沼城跡	20	宝生寺		
6	谷保の城山	21	八王子大谷	31	戸吹
7	矢川	22	碧山森	32	町田代官屋敷
8	図師小野路	23	国分寺姿見の池	33	柳窪
9	桧原南部	24	小比企	34	八王子館町
10	南沢	25	保谷北町	35	八王子長房
11	清瀬松山	26	前沢	36	町田関ノ上
12	南町	27	東久留米金山	37	八王子川口
13	八王子東中野	28	立川崖線	38	東村山大沼田
14	瀬戸岡	29	国分寺崖線	39	東村山下堀
15	清瀬中里	30	八王子石川町	40	八王子戸吹北
				41	日野東光寺
				42	町田民権の森
				43	玉川上水
				44	青梅上成木
				45	横沢入
				46	多摩東寺方
				47	八王子堀之内
				48	八王子暁町
				49	八王子滝山
				50	連光寺･若葉台

（出典）環境局「保全地域の保全･活用プラン」

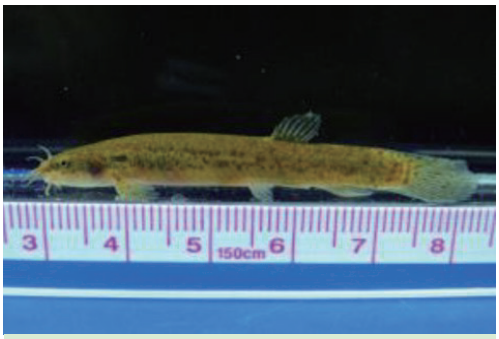
多様な生物が生息･生育



カワセミ



キンラン



ホトケドジョウ

（出典）環境局「保全地域の保全･活用プラン」概要版

緑を取り巻く社会環境

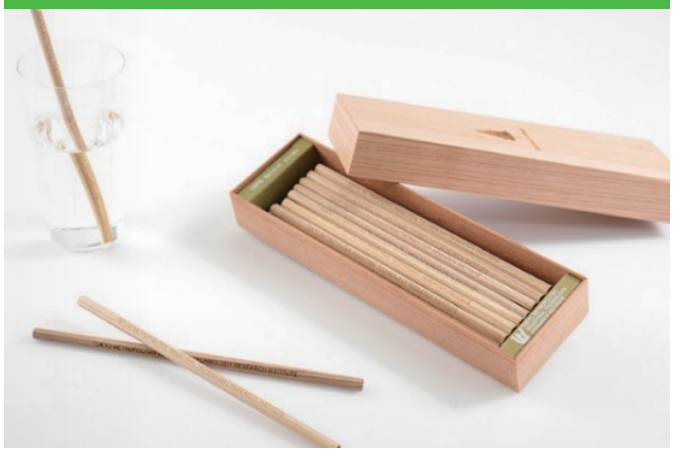
サステナブルな素材である木材需要の増加

再生可能で、サステナブルな資源である木材や木造建築に
大きな期待が集まっている。

脱プラスチック素材としての木材

プラスチックなどの人工資源に比べて、木材は再生可能で、環境にやさしい材料。

木製のストロー



木製のカトラリー・食器



（出典）東京都立産業技術センター ウェブサイト

世界的潮流の木材建築

世界的に新たな木造施設が建築されている。

グラン・パレ・エフェメール（パリ）





ヘルシンキ中央図書館（ヘルシンキ）



（出典）ヘルシンキ市ウェブサイト

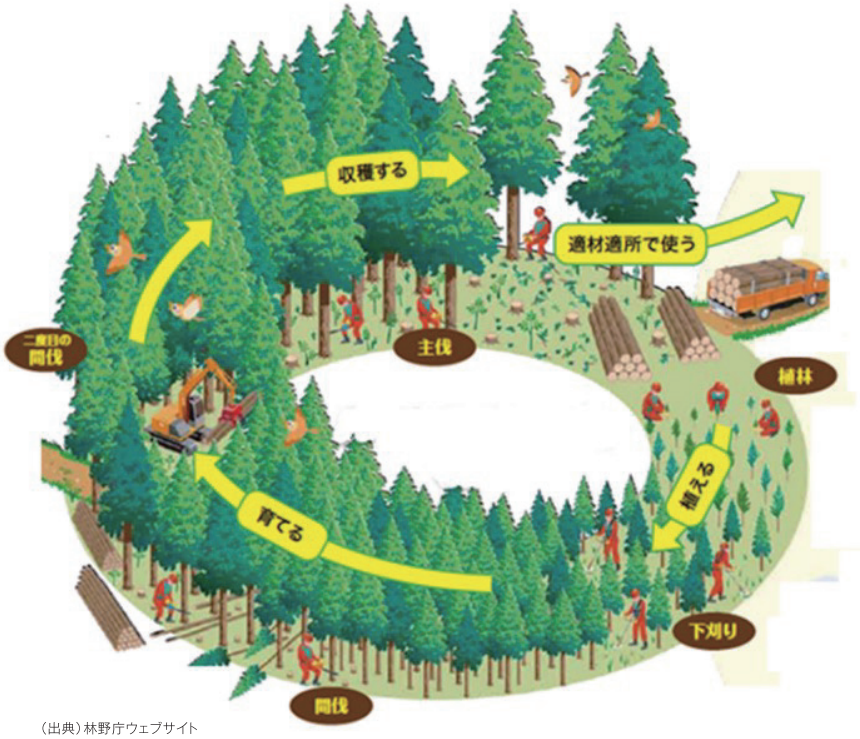
緑に求められる役割

森林の多面的な機能の発揮

森林資源の循環利用を図ることで、
森林の適正な整備･保全のみならず、森林の多面的な機能を発揮。

森林循環のイメージ

健全な森林を保つために、植える、育てる、使うサイクルをつくり、木材を活用。



（出典）林野庁ウェブサイト

複数の自治体が連携した森林整備の取組

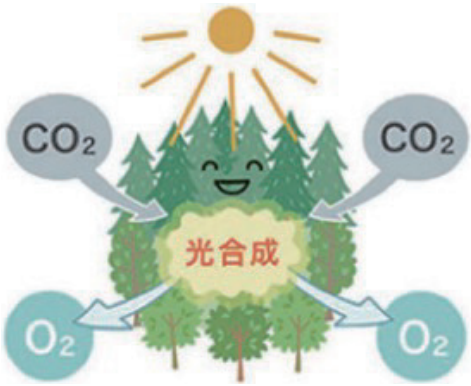
「森林環境譲与税の活用に係る都内連携に関する協定」を令和5年7月31日締結



主な森林の機能

地球環境保全

地球温暖化の緩和、地球の気候の安定



快適環境形成

気候緩和、大気浄化、快適生活、環境形成（騒音防止）



物質生産

木材、食料（きのこ等）、工業原料、高原材料



（出典）産業労働局「森づくり推進プラン」

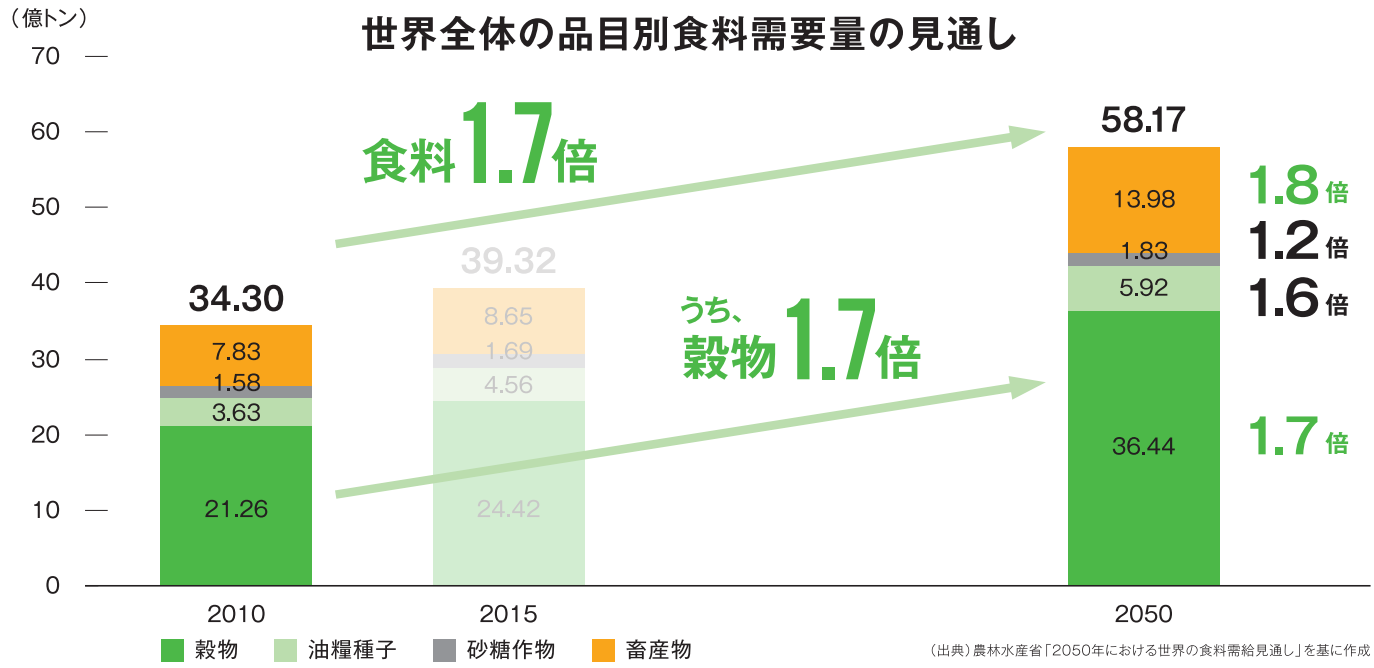
緑を取り巻く社会環境

世界的な食料需要増加　資源の有効活用

世界的な人口増加に伴い、食糧生産が世界的な課題。
限られた資源を有効に活用していくことが必要。

世界全体の食料需要量の見通し

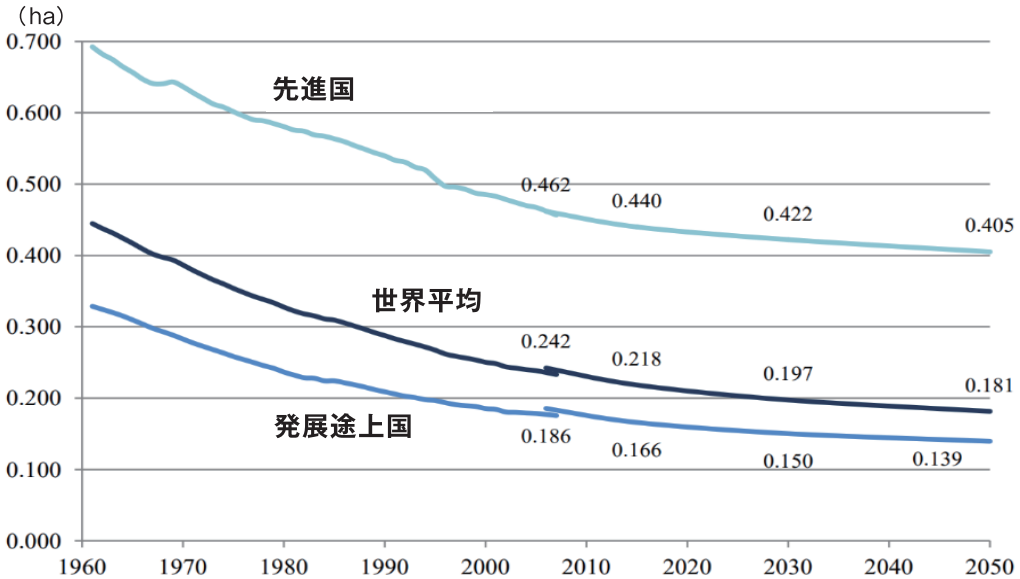
人口増加と経済発展により2050年の世界の食料需要量は2010年比で約1.7倍。



（出典）農林水産省「2050年における世界の食料需給見通し」を基に作成

一人当たりの耕地面積の見通し

一人当たり耕地面積は、先進国･開発途上国ともに減少していく見通し。



（出典）FAO「World Agriculture Towards 2030/2050」（2050年までの世界の食料需給見通し）

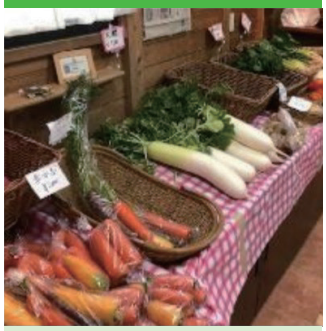
緑に求められる役割

持続可能で多機能な農業

持続可能な農業を展開し、
様々な機能を持った貴重な東京農業を守っていくことが重要。

主な都市農地の機能

新鮮な農産物の供給



消費者が求める
新鮮な農産物の供給、
「食」と「農」に関する
情報提供

環境の保全



都市の緑として、
雨水の保水、
地下水のかん養、
生物の保護等

住民の農業への理解醸成



身近に存在する
都市農業を通じて
住民の農業への理解を
醸成

身近な農業体験・交流の場

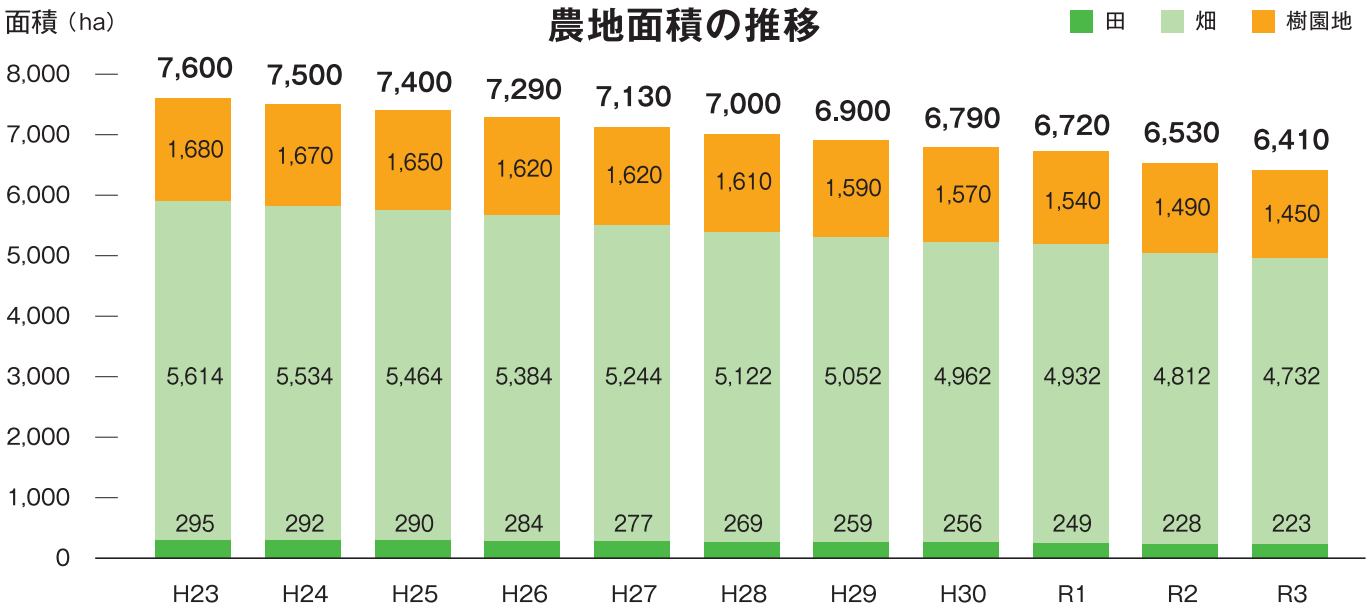


都市住民や学童の
農業体験・交流、
農産物販売等を通じた
生産者と消費者の交流

（出典）農林水産省ウェブサイト

農地面積の推移

都内の農地は平成23年から令和3年の10年間で1,190haが減少（減少率15.6%）。



（出典）農林水産省「耕地及び作付面積統計」を基に作成　※端数処理により、合計が一致しないことがある

用語解説



用語解説

語句	よみかた	意味
英数字		
J-クレジット制度	じぇいくれじっとせいど	省エネルギー機器の導入や森林経営などの取組によるCO_2などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。
KK線	けーけーせん	東京高速道路株式会社が管理運営する自動車専用の道路のこと。
Tokyo Sky Corridor	とうきょうすかいこりどー	現在は自動車専用の道路として供用されている東京高速道路（KK線）上部空間を再生・活用して整備される歩行者中心の公共的空間。
あ行		
か行		
海上公園	かいじょうこうえん	東京都の埋立地に設置された臨海部の特徴を生かした公園で、都市公園法に基づく都市公園とは異なる法体制（東京都海上公園条例）によって港湾局が整備・管理している公園。 海浜公園、ふ頭公園、緑道公園の3種類がある。
グリーンインフラ	ぐりーんいんふら	自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。
公開空地	こうかいくうち	建物の敷地の中の空地又は開放空間のうち、日常一般に公開される部分のこと。 まちづくり団体登録制度の活用等により、イベントなどを開催することができる。
高齢級化	こうれいきゅうか	森林の高齢化のこと。林齢は5年単位でまとめて「齢級」と表現する。
さ行		
里山保全地域	さとやまほぜんちいき	雑木林、農地、湧水等が一体となって多様な動植物が生息し、又は生息する良好な自然を形成することができると認められる丘陵斜面地及びその周辺の平坦地からなる地域で、その自然を回復し、保護することが必要な土地の区域。東京都が指定する保全地域の種類の1つ。
生産緑地	せいさんりょくち	都市の中にある農地を、計画的に保全していこうとする仕組み。
水源林	すいげんりん	河川上流部に位置し、水資源の貯留、洪水の緩和、水質の浄化といった機能の発揮が特に期待される森林。

用語解説

語句	よみかた	意味
た行		
多摩川上流域	たまがわじょうりゅういき	羽村取水堰より上流の多摩川の流域。東京独自の水源である多摩川は、山梨県から都内を流れ、東京湾へと注がれる。
特定生産緑地	とくていせいさんりょくち	生産緑地地区の指定から30年を経過するものについて、買取り申出可能時期を10年延長できる仕組み。
特別緑地保全地区	とくべつりょくちほぜんちく	都市緑地法に基づく制度で、都市において良好な自然環境を形成している緑地を指定する仕組み。
都市計画公園	としけいかくこうえん	都市計画法で定められた都市計画施設の1つ。主として自然的環境の中で、休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等のレクリエーション及び大震火災等の災害時の避難等の用に供することを目的とする公共空地。
都立公園	とりつこうえん	都市公園法及び都立公園条例に基づき、東京都建設局が設置･管理している公園
な行		
農業体験農園	のうぎょうたいけんのうえん	農家からきめ細かい指導を受けて農業体験を行うことができる農園。
法面	のりめん	自然の土地に、土を盛る「盛土」や土を削る「切土」などの手が加えられ、人工的に作られた斜面のこと。
は行		
保全地域	ほぜんちいき	自然の保護と回復を図ることを目的として都が条例に基づき指定する地域。
ま行		
や行		
屋敷林	やしきりん	屋敷を取り囲むように形成された樹林地で、相続等の理由により減少している。令和2年現在約800か所の屋敷林が都内に存在しているとされている。（「緑確保の総合的な方針」令和2年7月東京都都市整備局）
ら行		
緑化道路	りょくかどうろ	道路の緑と、周辺公共施設の緑とを一体的に整備した道路。
緑地保全地域	りょくちほぜんちいき	樹林地、水辺地等が単独で、又は一体となって自然を形成している市街地の近郊の地域で、その良好な自然を保護することが必要な土地の区域。東京都が指定する保全地域の種類の1つ。
緑被率	りょくひりつ	上空から見た際の、樹木、草地、屋上緑化等の緑に覆われている面積割合。
歴史環境保全地域	れきしかんきょうほぜんちいき	歴史的遺産と一体となった自然の存する地域で、その歴史的遺産と併せてその良好な自然を保護することが必要な土地の区域。東京都が指定する保全地域の種類の1つ。
わ行		

TOKYO GREEN BIZ

みどりと
生きる
まちづくり

東京都